

報告

2008年度徳島大学全学FD推進プログラムの実施報告

曾田紘二¹⁾、宮田政徳¹⁾、川野卓二¹⁾、齊藤隆仁²⁾、香川順子¹⁾、奈良理恵¹⁾

(1) 徳島大学 大学開放実践センター (2) 徳島大学 総合科学部

(キーワード: 初任者研修、FDファシリテーター養成研修、授業コンサルテーション、教育カンファレンス)

An annual report 2008 on campus wide Faculty Development programs at the University of Tokushima

SODA, Koji¹⁾, MIYATA, Masanori¹⁾, KAWANO, Takuji¹⁾, SAITO, Takahito²⁾, KAGAWA, Junko¹⁾, NARA, Rie¹⁾

(1) Center for University Extension, the University of Tokushima

(2) Faculty of Integrated Arts and Sciences, the University of Tokushima

(Keywords: New faculty seminars, FD Facilitator training seminars, Individual consultations, Education conference)

1. はじめに

本年度は、第3期全学FD推進プログラム(3ヵ年)の1年目である。今年度は前年度に引き続いて、授業コンサルテーション・授業研究会、FDラウンドテーブル、大学教育カンファレンスを実施した。第2期で実施したFDリーダーワークショップは趣旨、目的及びプログラム内容を手直しし「FDファシリテーター養成研修」として、またFD基礎プログラムは「全学共通教育担当教員初任者研修」に改変して実施し、今年度より新たに「FDとくとくセミナー」を実施した。

初任者研修としての全学共通教育担当教員初任者研修及び授業コンサルテーション・授業研究会、FDファシリテーター養成研修、話題提供者を囲む懇談の場としてのFDラウンドテーブル、特色ある教育実践発表の場としての大学教育カンファレンス、いう位置づけによって、各プログラムの役割を明確にし、FD実施者としてのファシリテーター養成研修を実施することにより、一層体系的が高まった。

これらのプログラムは、アンケート結果及びワークショップ等の実施状況から見て、概ね所期の成果を挙げたと言える。今年度は前年度までと異なり、大学教育カンファレンスにおいて、学務系事務職員も発表者となり、教員と学務系事務職員のFD・SD協働を一層進めた。

2008年度からは大学設置基準が一部改正され、

学士課程教育についての教員研修が義務化された。徳島大学FD第3期計画の上記プログラムは、このようなFD義務化に対応して設定したものである。また、FD実施組織の面でも今年度大幅な改変を行った。すなわち、全学部に学部FD委員会を設置し、FD専門委員会の各学部委員を学部FD委員会委員長またはそれに代わるものとした。このような改変によって、FD専門委員会が真に徳島大学FDを、入学初年次から大学院まで全面的に担当する委員会となった。今後は、全学FDと部局FDの役割分担を進めるとともに、連携して実施するプログラムの開発を進める必要がある。

大学教育委員会、FD専門委員会、学部FD委員会、大学開放実践センター及び学務部の連携のもとにこのような改善を進めることによって、徳島大学FDが真に全学的なものになり、また、徳島大学教員一人一人が自らの課題と捉えることによって、FDの一層の発展が実現できるものと考えられる。

2. FDファシリテーター養成研修

a. ねらい

平成20年2月の大学教育委員会において「徳島大学FD推進プログラム第3期計画(2008/4-2011/3)」が決定され、これに基づき年度ごとに「FD推進プログラム年度計画」を策定の上、FD活動を推進することとなっている。平

成 20 年度は第 3 期計画の初年度にあたり、第 2 期計画の成果と反省に基づき、その内容を改善した上で、平成 20 年度 F D 推進プログラムの一環として「F D ファシリテーター養成研修」(合宿ワークショップ研修) を実施することとした。

このプログラムの目標は次のとおりである。

- ①徳島大学 F D 活動の理念と活動計画を理解する。
- ②各部署において F D リーダーとして活動できる能力と資質を体得する。
- ③ F D リーダー間の仲間づくりをする。

全学 F D 推進プログラム第 3 期の 1 年目である今年、リーダーワークショップでは、到達目標、内容、対象者等、昨年度から開始したプログラムを引き続き実施した。

対象者は、学部長推薦とし、各学部・学科で F D 企画を立案・実施する立場の教員とした。プログラム内容は、F D ニーズの把握から企画の立案及びプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて体得し、F D 企画の立案能力を向上させることを目標とし、プログラムは F D 中四国ネットワークで開発した F D ファシリテーター養成プログラムを引き続き使用した。これまで以上に、明確な目標を設定し、実践的内容をもったプログラムを実施した。

当日は、愛媛大学教育・学生支援機構の佐藤浩章先生をファシリテーターとしてプログラムを実施した。

b. 概要

■開催期日

2008 年 6 月 21 日 (土) ～6 月 22 日 (日)

■会場

独立行政法人「国立淡路青少年交流の家」
(兵庫県南あわじ市阿万塩屋 757- 39)

■対象者

参加者は各学部推薦による下記教員である。

氏名	所属	職名
石田三千雄	総合科学部	教授
大橋 眞	総合科学部	教授
酒井 徹	医学部	教授
富田 修平	医学部	准教授
伊賀 弘起	歯学部	教授
大石 慶二	歯学部	講師
佐野 茂樹	薬学部	教授
植野 哲	薬学部	准教授
河村 保彦	工学部	教授
藤澤正一郎	工学部	教授
佐野 勝徳	全学共通教育センター	センター長
岸本 豊	全学共通教育センター	教授
齊藤 隆仁	全学共通教育センター	准教授

■学外講師等

氏名	所属	職名	備考
佐藤浩章	愛媛大学	准教授	講師
岡田佳子	長崎大学	准教授	オブザーバー
津田純子	新潟大学	教授	オブザーバー

■運営メンバー

氏名	所属	職名
川上 博		副学長
曾田紘二	大学開放実践センター	センター長
川野卓二	大学開放実践センター	准教授
宮田政徳	大学開放実践センター	准教授
香川順子	大学開放実践センター	助教
奈良理恵	大学開放実践センター	FD マネージャー
出川隆富	学務部学務課	学務課長
福川利夫	学務部学務課	教育企画係長

■内容

2 日間にわたって次のプログラムを実施した。

2008 年度 F D ファシリテーター養成研修日程

第 1 日 (2008 年 6 月 21 日・土曜日)

9:30 国立淡路青少年交流の家に到着・記念写真撮影

時刻	内容	講師・担当者
9:30-10:00	・鍵の受け渡し、部屋の確認	

10:00-10:30	(1)オリエンテーション ・徳島大学とFDへの期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	副学長(教育担当) 川上 博 大学開放実践センター長 曾田紘二 進行:川野卓二
10:30-11:15	(2)アイスブレイク	宮田政徳
11:15-11:45	(3)FD企画の立案と実施I「ニーズの把握」	佐藤浩章(愛媛大学)
11:45-13:00	昼食(11:50~12:20) 休憩	
13:00-14:45	(4)FD企画の立案と実施II 「方略の選択、方略の手順」 中間期の振り返り演習	佐藤浩章
14:45-18:00	(5)FD企画の立案と実施III 「情報収集の仕方と実践」 (6)FD企画の立案と実施IV 「企画書・プログラムの作成」	佐藤浩章
18:00-19:00	夕食・風呂他	
19:00-20:00	自由時間	
20:00-21:00	交流会	

22:30 就寝及び消灯

第2日(2008年6月22日・日曜日)

時刻	内容	講師・担当者
7:00-7:20	朝のつどい	
7:20-8:30	朝食(7:20~7:45) 掃除(点検・退室)	
8:30-10:00	(7)FD企画の立案と実施V「評価の仕方」	佐藤浩章
10:00-11:00	(8)FDプログラム作成の仕上げ	佐藤浩章
11:00-11:50	(9)FDプログラム発表・質疑	佐藤浩章
11:50-13:00	昼食(11:50~12:20) 休憩	
13:00-13:30	(10)プログラムのまとめ ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	副学長(教育担当) 川上 博 大学開放実践センター長 曾田紘二 進行:宮田政徳

14:00 バス発車 - 15:00 常三島キャンパス着

c. 成果と課題

はじめに、プログラム終了直後にとった、参加者へのアンケート結果を示す。

(1)今回のFDプログラムの内容について

- ・徳島大学全体のFD活動についての検証と、今後の計画について話しあう時間が必要である。各部局のFD計画は、あらかじめ案を作ってきてもらうことにより時間の短縮が出来るので

はないか？

- ・FDをすすめるための具体策を考えるのに大変参考になった。
- ・毎年FDをめぐる情勢は変化しつつあり、新しい内容を取り込んで企画されるのは大変なことだと思います。前に参加したことがあるのですが、新しい情報がとり込まれているのは良いことだと思います。今回、新しい企画を試みたの

ですが、面白かったと思います。

- ・ 学ぶことが多く、参加させていただいてありがとうございます。各学部でFD計画をつくり、それらを発表し、意見交換を行ったが、「カリキュラムゴッコ」など、参考になることがたくさんあった。レベル3（行動変容：behavior）に発展させたい。
 - ・ FDの進め方の具体性、問題点が示されてあってわかりやすかったです。
 - ・ 当初思っていた程、タイトでもなく、問題設定も講師の先生の指導やアドバイスも適切で丁度良い内容であった。FDプログラムを作成するという課題設定も、当事者意識を持つ機会としては新鮮でした。他学部の先生との交流は有形無形で有意義でした。
 - ・ 良かったと思います。勉強になりました。2日目の出来上がったProductの討論にもっと時間を使えると良かった気がします（が、長くしても冗長になるのでしょうか？）
 - ・ FDプログラムの作成についてはじめて体系的に習得できました。一皮むけた気がします。佐藤先生の進め方のすばらしさには、本当に感心致しました。まさに日本一のFaculty Developerです。
 - ・ FDについての理解が深まり、とても満足しています。部局での活動に生かしてゆきたいと思います。
 - ・ 進行（テンポ）がスムーズで良かった。知識はそれぞればらばらに知っていたが、ワークショップで実践することを通じて納得した。
 - ・ 非常に有意義だった
 - ・ 昨年よりはプログラムが短くなって、負担がいくぶん軽減されたように思われる。各学部でのFDの実施状況の意見交換の場があってもよい。
 - ・ 大変参考になりました。
- (2) 今回のプログラムの運営について
- ・ 今回の内容であれば、1日で終わることが出来るのではないだろうか？2日にわたって研修をおこなうのであれば具体的なFD活動について話しあうことが重要であると思う。
 - ・ 時間的には良いのではないのでしょうか。参加人

数は、もう少し多くても良いのでは。

- ・ 特に問題になる点はなかったと思います。
 - ・ 全体のプログラムは問題ないと思いますが、途中でレクレーション等を入れていただければと思います。
 - ・ 土日の1泊2日の日程にしては、スケジュール的にはタイトであったようですが、過ぎてみれば時間的にゆったりしている感じをしている。
 - ・ 過去に参加したWSに比べるとProductが少なかった気がします。少なかったので、参加していて楽でした。運営はとどこおりなく進行して良かったと思います。
 - ・ あまりハードでなく、ゆっくりと過ごせました。
 - ・ 2日間、快適にすごさせていただきました。ありがとうございました。
 - ・ 問題も起きず御苦労さまでした。
 - ・ おおむね良いと思われる。個人的には、交流会がもう少し長くてもよいと思われる。
 - ・ 交流会で参加者のもう少し詳しい自己紹介の場があった方がよかった。全学的な交流の場となることに留意していただきたい。
 - ・ 申し分のない運営に感謝致します。
- (3) 今回のプログラムの会場について
- ・ 特になし
 - ・ 会場自体、場所等は良い選択と思います。他の団体の宿泊の重なりはないところの方が良いと思います。宿泊室は新しいところで、気持ち良かったです。
 - ・ 満足しています。
 - ・ 良かった。部屋に蚊がいた。少しお酒が少なかった。
 - ・ 海も近く自然に囲まれたリフレッシュできる場でした。できれば個室の部屋であればと思う。温泉があればベスト！
 - ・ 初めてではありません。良い場所だと思います。
 - ・ 研修には最高の会場です。
 - ・ 集中して取り組むことができ良かったと思います。
 - ・ 近くて良いのではないのでしょうか。
 - ・ 適当だと思われる。
 - ・ 申し分なかったと思います。
- (4) その他お気づきの点があればご記入ください

- ・ 事務の方を交えてのワークショップも面白いと思います。
 - ・ 特にありません。スタッフの方ありがとうございました。
 - ・ お世話になりました。
 - ・ お世話になりました。本当にありがとうございました。
 - ・ 事前に研修の目的・内容等がよく理解できていませんでした。
 - ・ 今少し食事など時間の余裕があればと思いました。
- (5) 今回のプログラムに参加してFDプログラム作成能力が向上したと思いますか?
yes-12 無回答-1

参加者へのアンケート結果に見られるとおり、今年度もプログラム、会場、運営について概ね好評であり、普段あまり経験することのない他学部の教員との交流も良い評価を得ている。

学部や学科でFDを企画・実施する立場の参加者に対して、所期の目的を達成することができた。このプログラムのワークの中で、当該年度の学部FDプログラムを作成することが省力化につながり、学部・学科FD担当者にとって有意義なワークになったと考えられる。プログラムや設備の細部についてはアンケート結果を取り入れて可能な限り手直ししなければならない。

今年度は、最後に発表された各部局FDプログラムを見ると、学部における初任者研修等、適切な内容と構成をもったものが多く、外部講師の評を借りれば、学部FDを実施できる人材が確実に育っていることが感じられた。

次年度以降も、このプログラムをファシリテーター養成の場としてより実効性あるものにして行かなければならない。

3. 全学共通教育担当教員初任者研修

実質的なFDの取り組みを進めるため、徳島大学の共通教育における教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修である「全学共通教育初任者研修」を実施した。本研修は、2007年度まで実施していた「FD基礎

プログラム」を基に、共通教育の要素をとり入れて実施したものである。これまで、「FDファシリテーター養成研修」と共同実施していたが、2008年度は、別立てで研修を行うこととなった。本節では、その研修内容について報告する。

a. ねらい

- 本研修のねらいは以下の通りである。(①、⑤については、FD基礎プログラムのねらいと同様)
- ①徳島大学全学FD活動の理念、活動計画を理解する
 - ②共通教育の授業を実施する上での知識・スキルの体得
 - ③学生の思考を促すための授業を設計できる
 - ④自他評価を行い、自身をふりかえるための枠組みを考えられる
 - ⑤FDの共同実施者として仲間づくりができる

b. 概要

■開催期日

2008年9月19日(金) 9:30-17:30

2008年9月20日(土) 10:30-15:30

■会場

大学開放実践センター3階

「授業研究インテリジェントラボ」

■対象者

対象教員は、過去2年以内の採用者で、2008年に初めて共通教育の授業を担当する者とした。今年度は、先の条件に該当する教員が10名であったが、そのうち参加可能な教員が4名参加した。なお、1日目午前中のプログラム(1)オリエンテーション、(2)アイスブレイク、(3)講義、においては、SD(教員研修)も共同実施した。徳島大学における教育への理解促進のため、12名の職員が参加した。

■参加教員

氏名	所属	職名
福田スティーブ利久	全学共通教育センター	助教
内海千種	総合科学部	助教
樋口友乃	総合科学部	准教授
濱野修一	医学部保健学科	助教

■参加職員

氏名	所属	職名
三好 信幸	学務部学務課総務係	係長
福川 利夫	学務部学務課教育企画係	係長
武田 仁志	学務部学務課教育支援係	係長
兒玉 正史	学務部学務課学生支援係	係長
妹尾 禎之	学務部学務課(学生支援部門)	専門職員
桑村 憲治	学務部学務課(学生支援部門)	専門職員
清水 晃広	入試課入学試験係	係員
岡 誠	医学・歯学・薬学部等 事務部学務課学生係	係長
松尾麻里子	医学・歯学・薬学部等 事務部学務課第一教務係	主任
田村 典子	医学・歯学・薬学部等 事務部学務課第二教務係	係員
板東 恭代	医学・歯学・薬学部等 事務部学務課第三教務係	主任
白田 智子	工学部学務係	主任

■運営メンバー

副学長(教育担当)、大学開放実践センター長(FD専門委員会委員長)を含め、大学開放実践セン

ター教員4名、FDマネージャー1名の計6名で運営した。

氏名	所属	職名
川上 博		副学長
曾田 紘二	大学開放実践センター	センター長
川野 卓二	大学開放実践センター	准教授
宮田 政徳	大学開放実践センター	准教授
香川 順子	大学開放実践センター	助教
奈良 理恵	大学開放実践センター	FDマネージャー

■学外講師等

氏名	所属	職名
佐野 勝徳	全学共通教育センター	センター長
桑折 範彦	総合科学部	教授
齊藤 隆仁	総合科学部(操作支援)	准教授

■オブザーバー

氏名	所属	職名
横井 利夫	神戸学院大学薬学部	教授

■内容

2日間にわたり、次のプログラムを実施した。

2008年度全学共通教育担当教員初任者研修プログラム

第1日 (2008年9月19日・金曜日)

【SD】の箇所はFD、SDの共同実施

時刻	内容	講師・担当者
9:00-9:30	受付	—
9:30-10:00	(1) オリエンテーション【SD】 ・徳島大学の教育とFDへの期待 ・全学共通教育の理念 ・研修プログラムの目的・概要説明 ・進め方とスタッフ紹介	副学長(教育担当) 川上 博 全学共通教育センター長 佐野勝徳 川野卓二(全体進行)
10:00-10:30	(2) アイスブレイク【SD】 ・ARSを利用したFDクイズ	宮田政徳
10:30-11:00	(3) 講義「学士課程教育における学習環境の構築」【SD】 ・2008年審議まとめ「学士課程教育の構築に向けて」より(学士力の育成、教養教育のあり方)	香川順子
11:00-12:00	(4) 演習「徳島大学における授業支援システム(Moodle)の紹介」	桑折範彦 齊藤隆仁(操作支援)

12:00-13:00	休憩 昼食(各自で)	—
13:00-14:00	(5) ワークショップ「よい授業とは何か？」 ・マインドマップの作成 (個人ワーク) ・よい授業とはどのようなものか? 概念整理 (グループワーク)	宮田政徳 香川順子
14:00-15:15	(6) 講義「授業計画・授業実施に関する事例の紹介」 ・授業の計画から実施まで ・学生の学びを支援する手法 ・学生の能動学習に関する事例紹介 ・Active Learning に関する事例紹介	宮田政徳 香川順子 曾田紘二 福田スティーブ 利久
15:15-15:30	休憩 (適宜コーヒープレークをとる)	—
15:30-17:30	(7) 講義・ワーク「模擬授業実施への準備作業」 ・模擬授業実施手順の説明 (講義) ・シラバス、授業計画書、教材作成 (ワーク) ・模擬授業の実施にあたって (連絡)	宮田政徳 (講義・連絡) センター教員全員

第2日 (2008年9月20日・土曜日)

時刻	内容	講師・担当者
10:00-10:30	集合・模擬授業準備	センター教員全員
10:30-11:40	(8) 演習「模擬授業」 (前半) 授業紹介 5分、模擬授業 20分、質疑応答 5分	センター教員全員
11:40-13:00	休憩 昼食(各自で)	—
13:00-13:30	「模擬授業」 (後半) 授業紹介 5分、模擬授業 20分、質疑応答 5分	センター教員全員
13:40-14:20	(9) 討論「模擬授業のまとめ」 ・よりよい授業を行うには? (全体討論) (10) 講義「徳島大学における全学FD活動の紹介」 ・徳島大学全学FD活動 ・授業コンサルテーションに向けて (趣旨説明)	川野卓二
14:30-15:00	(11) プログラムのまとめ ・修了証書授与 ・事後アンケート ・おわりの言葉	FD専門委員会委員長 (大学開放実践センター長) 曾田紘二 宮田政徳 (進行)

■全体の流れ

[1日目]

「(1) オリエンテーション」では、川上副学長より「徳島大学の教育とFDへの期待」について、佐野全学共通教育センター長より「全学共通教育の理念」についてお話を頂いた。

「(2) アイスブレイク」では、クリッカーと呼ばれる聴衆応答システム/Audience Response System(ARS)¹⁾を利用したFDクイズを実施した。参加者全員にカードサイズの発信機を持ってもらい、出された質問に対する答えを発信機で送信し

た。今回は質問に対していくつかの選択肢から正解の番号を選択する形式で行われた。内容は主に、徳島大学における学生の学習に関する実態調査報告書『ラーニングライフ』²⁾より出題された。

「(3) 講義」においては、2008年の審議まとめ「学士課程教育の構築に向けて」³⁾の内容を中心に、学士力の育成、教養教育のあり方について講義を行った。

ここまでのプログラムは、SDを共同実施したため、職員も参加した。このあと、参加教員4名は引き続き研修へ参加した。

「(4) 演習」では、徳島大学における授業支援システムとして利用されている Moodle の使い方について、紹介と解説がなされた。参加教員は、実際にパソコンを操作しながら、自身の科目をシステム上に設定する作業を行った。

「(5) ワークショップ」では、「よい授業とは何か？」を考えるためのワークショップを行った。まず個人で「よい授業とは何か」について考え、マインドマップ⁵⁾を作成した。その後、各個人の考えを簡単に発表してもらい、情報共有を行った。次に、学生の思考を促すための授業活動が書かれたカードを参考にしながら、「よい授業とはどのようなものか？」について概念整理を行った。よい授業とは何か考えが深まったところで、次の模擬授業の準備へ移る。

「(6) 講義」では、まず授業計画から実施までの留意点が解説され、特にシラバスの書き方について具体事例を紹介しながら解説が行われた。その後、学生間、学生・教員間の相互交流や、真の学びを引き出すための手法、授業事例の紹介がなされた。

「(7) 講義・ワーク」では、一連の講義、ワークショップを終えたところで、模擬授業への準備作業にとりかかった。まず手順の説明を行い、その後シラバス作成、授業計画、教材を作成する。この作業は、全学共通教育科目の講義を行うという設定で、90分、全15回のシラバスと、そのうちの1回分の授業計画書を作成した。模擬授業の受講対象者を、1年次の学生とした。参加教員は、自身の専門に基づいて授業計画をたて、教材(パワーポイント等)を作成した。運営スタッフにより、適宜必要な支援を行いつつ、参加教員の個人作業が進められた。

[2日目]

「(8) 演習」では、作成したシラバスと授業計画に基づき、20分間の模擬授業を実施した。シラバスや授業計画など自身の設計した授業紹介が5分、模擬授業が20分、質疑応答に5分とり、一人につき30分をとって進めた。模擬授業は、「基礎英語」、「小人数英語スピーキング」、「心理学概論」等の科目を想定して行われた。

模擬授業実施後、まとめの討議が行われた。そ

して最後に、全学FD活動に関する説明と、参加者の実践的な授業改善に役立つ活動として、授業コンサルテーションの紹介・申込受付が行われた。本研修では、日常の授業改善に関する参考資料として、FDハンドブック第1巻～第4巻が配布された。内容は、シラバス作成、わかりやすい講義の仕方、よりよい成績評価の仕方、授業研究会の運営の仕方である。

c. 成果と課題

■プログラムの到達目標に対する達成度について

[到達目標①:徳島大学の全学FD活動の理念、活動計画を理解する]

全学FD活動に関する理念、活動計画に関するプログラムは、(1)オリエンテーションでの川上副学長による「徳島大学の教育とFDへの期待」と、(10)講義「徳島大学における全学FD活動の紹介」である。これらのプログラムにより、参加教員は徳島大学の全学FD活動についておおむね理解したと思われる。

しかし、本研修の実施内容については、アンケートから、参加を確認する時点で、詳しい情報提供があればよかったという意見があったこと、また研修内容や意図を十分に理解しないまま参加していた教員が見られたことから、今後は早い段階で十分な情報を分かりやすく提供することが必要である。実施側が効果的な研修を提供することはもちろんであるが、事前にFDに対する理解を深め、参加教員の準備状態を整えることも併せて行うことで、より有意義な研修へとつながるだろう。

[到達目標②:共通教育の授業を実施する上での知識・スキルの体得]

佐野全学共通教育センター長より「全学共通教育の理念」についてお話を頂き、本学の共通教育に関する理念を伝えた。また、シラバス作成や授業計画などの授業実施における基礎的な知識・スキルの体得を目指すと共に、学士課程教育において重要と思われる要素を取り込み、プログラムを実施した。特に1日目の(3)講義、(4)演習、(5)ワークショップで実施したプログラムは、前述の要素を反映させたものである。

学士課程教育構築のための基礎知識としては、

(3) 講義において、学士課程教育において育成すべき力や学習環境構築の要点を解説した。また教職員に対して、自分に何ができるかを問いかけ、大学コミュニティの構成員としての自覚を意識することと、大学の発展のために自身の能力向上をはかることが重要であるという意識を持たせることもねらいとした。

授業計画・実施のための基礎的な知識としては、(7)以降の模擬授業に関わる活動において、授業計画・実施のために必要な知識の提供を行い、実際に授業を実施することで、その知識を活用する機会を提供した。

以上のプログラムにより、参加者は、共通教育の理念の理解、学士課程教育構築のための要点、授業実施のための基礎知識に関しておおむね理解したと思われる。

今回の研修では、スキルを体得したとまでは言えないが、参加教員にとって役立つ知識を得る活動であったことが推測される。それは、模擬授業の活動から、研修で得た事を活かし、スキルアップしていこうとする態度が見られたことや、アンケートから、今回の研修が参加教員全員の教育への関心を高めたことから推察できる。本研修は以上の点について、ある程度の効果があったといえるだろう。

【到達目標③:学生の思考を促すための授業を設計できる】

2008年の審議まとめ「学士課程教育の構築に向けて」³⁾において、学士課程において育成すべき力として「学士力」提示された。このような汎用的なスキルの育成を促進するための学びが強調され、近年、学生の能動的な学習（アクティブ・ラーニング）の促進が重視されている。

今回の模擬授業では、単なる知識伝達のための授業ではなく、学生の能動的な学びを促す支援について工夫した模擬授業を考え、実施してもらった。

学生の学びを促す手法やツールに関しては、(2) アイスブレイクでのARSや、(4) 演習でのMoodleなどの授業支援ツールに触れてもらったこと、(5) ワークショップでは、思考を促す手法として、マインドマップ⁵⁾や概念整理の手法を取

り入れたワークショップを実施した。また、(6) 講義においては、学生間、教員間の相互交流を重視した、真の学びを引き出すための手法の紹介や授業事例の紹介がなされた。

(6)の授業事例の紹介や(8)模擬授業においては、参加教員は相互交流により新たな知識を得たようである。それは次のアンケートからもよく分かる。授業事例の紹介では、他教員の考えや授業アイデアが非常にためになったこと、模擬授業では、他学部の授業を聞くことができ、参考になったこと、また他教員からのコメントをもらったり、話し合ったりしたことなどである。

実際に各参加教員は、自身の科目に合った手法をうまく取り入れ、学生の学びを促す工夫をした模擬授業を行っていた。また、各参加教員の模擬授業をお互いに体験し、それについて話し合ったことが特に意義のある活動であったようだ。

以上に述べたように、参加教員は多様な手法やツール、授業事例に触れながら、新たな知識を習得し、学生の思考を促すための授業設計へ向けて、ある程度の準備が整ったと考えられる。

【到達目標④:自他評価を行い、自身をふりかえるための枠組みを考えられる】

模擬授業を評価するためのシートを活用することで、客観的な評価のための枠組み（視点）を意識させることをねらいとした。他者から評価をもらうことで、自分では気づかない点に気づき、他者を評価する経験を通して、客観的に自身をふりかえる視点を持つことを促すためである。またその経験を通して、日常的な授業改善の中で活用できる評価視点を持つことをねらいとした。到達目標③のところでも述べたが、この相互評価から、参加教員は多くを学んだようである。一連の活動を通して、基礎的な評価の理解はできたと思われる。

今回は評価視点を取り入れたレーダーチャートと自由記述を用い、簡単な相互評価を行ったが、今後は、教員の日常的な教育改善を促すためのシートを作成して導入していくことが必要である。

【到達目標⑤:FDの共同実施者として仲間づくりができる】

今回の研修においては、参加者が4名と少数で

あったが、それがかえって相互交流を促進させていたと考える。少人数のため、お互いのコミュニケーションがとりやすく、自由な雰囲気の中で作業が進められた。アンケートからは、とても柔軟性のある研修だったこと、その中で、時間を有効に使えたという意見から考えると、自由な雰囲気の中で、充実した活動がなされていたことが推察される。

またアンケートから、専門の違う教員と交流でき、話し合えたことについて評価が高かったこと、さらに、到達目標③で述べたとおり、模擬授業において、他の参加教員や授業経験を積んだ教員との交流が有意義な活動であったことが分かる。このことから、世代や領域を超えた相互交流による場が形成され、その中で他者の経験から新たなことを学ぶという環境が構築されていたのではないかと考える。

研修では、作業を行う場面では、初任者である参加者間でお互いの進捗状況を確認しながら作業が進められ、学び合いながら進めていた。またスタッフ等の授業経験を積んだ教員も、ワークショップでは参加者と共同で作業を行い、模擬授業では実際に受講してコメントを行うなど、研修に参加していた。これらの活動を通して、参加教員同士や参加者以外のスタッフ等も含め、全体的なコミュニケーションが円滑になっていた。

以上から、研修を通して参加者間に仲間としての意識が芽生えたこと、運営スタッフも授業を実施している仲間の一人という同僚的な立場から研修へ関わっていたことが、研修のよい雰囲気づくりへとつながったと考える。

またスタッフに関しては、これまでの授業実施の経験と合わせてFD実施に関わってきた経験から、専門的な立場としても関わっていたことが重要な意味を持つ。同僚的立場と専門的立場という二つの側面から、同僚的専門家として関わっていたことが今回の研修の場の雰囲気づくりに関係し、仲間意識が芽生えるような支援がある程度はできたのではないかと考える。今後の課題としては、研修における活動を通して、参加者が相互に高めあうようなFDコミュニティへとつながるよう支援していくことが必要である。

■プログラム全体を通じた今後の課題

全体を通じた今後の課題としては、次のことがあげられる。

①FD、SDの共同実施と連携

今回は、1日目前半の教職員間の交流がほとんどなかったことが心残りである。今後は、徳島大学の教育発展のために、教職員の参加者間交流を行いながら研修を進めていく必要がある。

②教員の学び合いを支援する

参加教員の中には、教育を専門とする教員が参加しており、この参加教員から学ぶことも多く、今回はお互いに学び合うという相互研修的な要素が強かった。今後は、各教員がお互いに学び合う場を充実させ、そのための支援やコーディネートを行いながら、研修を進めていくことが必要である。

③FDの効果検証

研修の効果について詳細に分析できるような体制を整え、それを改善へつなげて、より効果的なプログラムを継続的に開発していくことが必要である。

④Webによる情報提供

研修参加にあたっての情報提供を充実させること、また本研修を終えた次のステップとして、日常的な授業改善に役立つような情報提供を分かりやすく行う必要がある。今後は、教育の質向上のために、参加型授業や効果的な授業について参考になる学内外の情報をまとめ、Webにより情報提供を行うことが必要である。

⑤各種全学FDプログラムとの連携

本研修の次のステップとして、授業コンサルテーションが準備されているが、他のプログラムも含め、有機的なつながりを強化することと、その関連が参加者に分かるような形で情報提供をする必要がある。

⑥その他

アンケートに述べられているように、教員が必要とする支援について検討すること、開催時期の見直し、物理的な環境の見直し等が必要である。

■来年度以降の基礎プログラムへ向けての課題

2008年度より、学部FD委員会が設置され、全学共通教育センターを含めた部局FDの本格的な実施が始まった。これにより、全学FDの担う役割が変化しつつあり、全学FD活動を見直す時期にきている。「FD基礎プログラム」が始まった頃と比較して、現在では教員の教育に対する意識が変化し、FDに対する理解も浸透してきている。また当初に比べ、全学、各学部(部局)のFD活動も進み、多様化している。

このような状況の中、基礎的な研修プログラムについて再度見直しを行い、検討する必要がある。2008年度は、共通教育をテーマとして研修を実施したが、共通教育センターによるFDの役割、機能分化のため、基礎プログラムを新たなものとして実施する必要がある。

「FD基礎プログラム」実施当初の目的は、「授業に対する熱意と実践力のある教官を増やすことによって、徳島大学の教育の全体的レベルアップを目指す」ことであった。(廣渡ほか 2004) このねらいを達成するためには、基礎を身につけたいという教員に対して実施することが必要である。その他、教員になる前の大学院生や授業経験の少ない非常勤講師(教員)も対象とした研修を実施することが必要であろう。

d. 初任者研修アンケート結果

最後に、アンケート結果について記しておく。

(1) 研修のプログラム内容に関する感想や要望等

① 今後、授業の実施や改善に役立ちそうな点

- ・ すべての話が役に立ちました。個人的には新しいものというより復習という感じでした。
- ・ 模擬授業後に頂いたコメントやFDハンドブックなどが特に役立ちそうです。
- ・ 一日目の事例提示のセッションで、他の先生方の考え、授業アイデアをきくことができ、非常にためになりました。
- ・ 学生参加型授業をどう取り入れるか考えるきっかけができた。

② プログラムの感想、改善点等

- ・ なし。他のプログラムと比較してとても時間を有効に使えました。
- ・ センターの先生方や初任者の先生方と和やか

なムードで進んで、よかったですと思います。

- ・ 他の専門の先生方と知りあいになり、話しあえた点が一番よかったです。(もちろん、講義をうけて、それについて話しあったので、講義が重要だったのはいうまでもなく)
- ・ 他学部の授業が聞けて参考になった。
- ・ 模擬授業のあとに、よい授業あるいはeラーニングなどについての討論があったらよかったですと思います。

③ 今後取り入れてほしい事

- ・ 曾田先生の資料にもあったように、学生の意見や話を面と向かって話したいです。
- ・ 授業とは関係ありませんが、EDBや科研、パワーポイント、Moodle、CALL教室、LL教室の使い方など。
- ・ プレゼンテーション、効果的なスライドの作成方法と授業でパワーポイントを使用する時のポイント(実際の授業ではパワーポイントは使いにくい印象があります。)
- ・ 学生の接し方(大学としての方針): しかり方、(セクハラ、パワハラ) など

(2) 研修プログラムの運営に関する改善点

- ・ とても柔軟性(時間や内容)がある研修でした。授業をしている際もとても大切なものです。それも皆さんの勉強になったと思います。
- ・ この研修への参加は初任者の義務なのか任意なのか、そのなかでも模擬授業の実施も義務なのか任意なのかを明確にしてほしいと思います。
- ・ 参加の意志の確認と同時にある程度の内容も知らせて頂けると助かります。
- ・ きちんと運営されていたと思います。

(3) 研修会場の場所、設備、広さなどの環境

- ・ よかったですと思います。しかし、暑がりの私にとって少し室温が高かったと思います。また、冷たい飲み物があつたらありがたいです。
- ・ 1日目は冷房がききすぎて寒かったです。28℃設定はどうなったのでしょうか。
- ・ 快適に受講できました。
- ・ 不満なし
- ・ ちょうどよい設備、環境です。

(4) その他気づいた点

- ・なし。しかし、何年も徳大にいる先生がこのような研修が一番必要だと思います。
- ・後期の授業の開始直前であまり余裕がない時期でした。
- ・できれば、後期開始直前の今回のような時期よりは、夏休みに入って成績作成がおちついたあとすぐくらいの方が心に余裕があるように思います。

(5) 今回のプログラムに参加して、教育への関心が高くなりましたか？

yes 5 no 0

4. 授業コンサルテーション

a. 授業コンサルテーションの目的

徳島大学では、全学FD推進プログラムの一環として、2005年度より「授業コンサルテーション」を実施しており、2008年度においても引き続き行った。2008年度の対象者は4名であった。2008年度の授業コンサルテーションは、二日間に渡って実施した「共通教育担当教員初任者研修」(9月19～20日に実施)の受講者を主な対象にした企画である。授業コンサルテーションでは、個々の教員の実情に沿った具体的で日常的なFDをめざしている。

b. 授業コンサルテーションの流れ

現在のところ、次のような流れで進めている。昨年度と同様である。

FD基礎プログラム参加者の授業への参観・VTR撮影・学生アンケート

↓

授業記録作成・学生アンケート整理

↓

授業研究会(発表・VTR視聴・議論)

↓

目的: 授業の把握、授業の改善、参加者間での授業技術の共有化

まず、センター教員とFDマネージャーが、各教員の授業を参観し、簡単なメモ(授業まとめ、時間経過、特筆すべき発言や出来事)をとりつつ、授業をVTRに収める。授業終了時には、学

生へのアンケート(その日の授業で何を学んだかということと、授業に関する先生へのメッセージについて)を実施する。さらに時間があれば、教員に授業に関する簡単なインタビューを行う。

その後、VTRをもとに、センター教員が詳細な授業記録を作成し、それと平行して授業の主要部分の映像を編集し、DVDを作成する。授業記録は、時系列に沿って授業の展開過程(まとめ、何が話されているか、学生との相互作用、板書など)がわかるように作成した。DVDは授業の展開が分かるように、各まとめから数分間の映像を抽出し、合計で20分強になるようまとめた。さらに、授業より数週間後、授業記録やDVD、学生アンケート結果をもとにした「授業研究会」を開催する。そこでは、様々な部局からの参加者を交えて、授業改善の知恵を出し合ったり、また授業からいろいろなことを学び合うことをめざした。

c. 授業研究会

授業研究会は以下のような手順を進めた。所要時間は全部で1時間20分ほどである。これも昨年度と同様の手順である。

簡単な説明(授業全体のねらい/この日のねらいなど: 対象者の先生より5分)

↓

授業DVD視聴

↓

授業参観者報告・学生アンケートから読めること(大学開放実践センター教員より5～10分)

↓

授業者解説(当日の様子/授業でうまくいっている点・お困りの点など各論: 対象者の教員より5～10分)

↓

自由討論(あるいは課題討論10～15分)

徳島大学に着任した共通教育担当新任教員のうち、授業をもたない教員などを除き、2008年度は2名の教員に対して授業コンサルテーションを行った。授業研究会では大学開放実践センター教員のほか、対象教員が所属する部局等からの参加

がみられた。

なお、授業研究会は、授業研究インテリジェントラボあるいは蔵本キャンパスの会議室で行った。2008年度の授業研究会は以下の通りである。

- 第1回 2008年12月22日(月) 16:00~17:20
 - ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：福田スティーブ利久助教(全学共通教育センター)
 - ・授業題目：『主題別英語』
 - ・議論内容：英語に対して、特に英語を話すことへの抵抗を持つ学生に対して、英語を話すことの楽しさを教える授業の取り組み、学生の学習目標に沿った授業設定、アクティブラーニングにつながっていくグループ学習のやり方が議論された。
- 第2回 2009年3月5日(木) 10:00~11:20
 - ・開催場所：医学部保健学科第一会議室
 - ・授業担当者：奥田紀久子准教授(医学部保健学科)
 - ・授業題目：『看護学実習』
 - ・議論内容：総合科学部養護教諭コース5名に対して12月15日に実施されたグループ学習を中心とした授業が紹介された。養護教諭として生徒とのコミュニケーションの重要性を理解するため、コミュニケーションの意義と要素を、グループ別にコミュニケーションゲームを通して学生に気づかせたことが大いに評価され、支持する意見が多かった。こうしたグループワークを成功させるかどうかは、熟練した教員の力量に左右されることが指摘された。授業担当者の学生との巧みなコミュニケーションの取り方も、学生には大いに学びになったのではないか、という意見が出された。この日の授業研究会には、保健学科の教員を中心に23名の参加があり、過去最大であった。

5. FDとくたくセミナー

第3期から始まった新しい企画として「FDとくたくセミナー」がある。このセミナーは、授業改善のための具体的なスキルアップを目指してレクチャーやワークショップを中心に行うもので、

今年度は、8月下旬から10月上旬にわたり、計4回(全6コマ)実施した。

●第1回FDとくたくセミナー

【日時】2008年8月29日(金)

〔第1部〕13:00~15:00

【場所】授業研究インテリジェントラボ(大学開放実践センター3階)

【内容】講演 テーマ：「歯学部におけるPBL~チュートリアル授業の概要」

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔保健教育学分野の伊賀弘起先生により、歯学部におけるPBLチュートリアル授業の概要についてご紹介いただいた。少人数グループでの協調学習やファシリテーターとしての教員の関与の仕方、課題の内容、評価の方法について、具体的な事例を交えた紹介であった。参加者数は、10人であった。

〔第2部〕15:30~17:30

【場所】コンピューター教室(大学開放実践センター1階)

【内容】演習 テーマ：「PPTの使い方(入門編)」

大学開放実践センター 香川順子先生により、PowerPoint2007の基本操作について、演習形式でのセミナーが行われた。新しくなったPowerPoint2007の特徴をふまえ、画像挿入、アニメーションの設定のコツ、新しいコマンドを用いた演習が行われた。参加者数は、7人であった。

●第2回FDとくたくセミナー

【日時】2008年9月5日(金)

【場所】授業研究インテリジェントラボ(大学開放実践センター3階)

【内容】〔第1部〕テーマ：「学生の声から始めた授業改善」 講演 13:00~15:00

平成19年度に工学部優秀教員賞を受賞された大学院ソシオテクノサイエンス研究部の杉山茂先生に、20年をかけて改良を積み重ねてこられたご経験から、具体的な授業の改善策を教えていただいた。演習の進め方について、個人に対応した励まし、問題を解くポイントの説明、板書の仕方、発表の工夫など具体的に話していただき、学生の自主的な学びを促進させる方法について議論がなされた。参加者数は、19人であった。

〔第2部〕テーマ：「授業の『見せ方』一視聴

覚資料の効果的な活用法」講演 15:30~17:30
 前期共通教育賞受賞された総合科学部の高橋晋一先生に、画像や動画、音楽などの視聴覚教材を利用しながら、その「見せ方」について具体例を提示して頂きながら授業内容をご紹介いただいた。学生の興味を引く刺激的な授業を目指して取り組まれており、効果的なメディアの利用法について教えていただいた。学生の思考を促すにはどうすればよいかについても議論がなされた。参加者数は、14人であった。

●第3回FDとくどくセミナー

【日時】2008年9月26日(金) 16:30~18:30
 【場所】授業研究インテリジェントラボ(大学開放実践センター3階)
 【内容】講演 テーマ:「授業の評価をどう行えばいいのか?」

実践センターの川野卓二先生により、成績評価、学習評価、授業評価など様々な側面から評価に関する基本的な情報提供があった。テストの作り方やボーダーラインの学生をどのように評価するか、統計的な手法と事例を交えた内容であった。その後、成績評価、授業評価について、活発な意見交換がなされた。参加者数は、7人であった。

●第4回FDとくどくセミナー

【日時】2008年10月3日(金) 15:00~17:00
 【場所】授業研究インテリジェントラボ大学開放実践センター3階)
 【内容】講演 テーマ:「聴衆応答システム(クリッカー)を使ってみよう」

総合科学部の齊藤隆仁先生により、クリッカーの使い方について紹介があった。聴衆応答システムとは、聴衆(学生)にカード型発信機を用いて選択肢を選んでもらうと、パワーポイント上で自動集計できるというもので、一般にはクリッカーと呼ばれているものを利用したシステムである。齊藤先生から、授業での理解度の確認の仕方、リアルタイムでのアンケート利用、問題提起など、使い方のご提案をいただいた。クリッカーについて説明・実演いただいた後、実際にパソコンを使ってクリッカーの問題を作成し、活用方法について議論がなされた。大人数講義での教員と学生とのやりとりの方法や参加型授業での効果的な使い

方について実際に活用しながら具体的な利用方法を考えていく必要性について話し合われた。参加者数は、7人であった。

6. FDラウンドテーブル

a. FDラウンドテーブルの目的

徳島大学では、2005年度より第2期全学FDプログラムの一環として、「FDラウンドテーブル」を実施している。第3期全学FDプログラムが始まった2008年度においても引き続き行なわれた。このFDラウンドテーブルでは、大学内外の講師からFD関連の話題を提供してもらおう企画である。主な内容は徳島大学教員が直面している課題やFDに関する諸問題に関するもので、それらのトピックをもとに参加者が気軽に話し合い、日常的なFD活動を目指している。2008年度は4回行われた。

b. 各回の概要

●第1回FDラウンドテーブル(参加者9名)

【日時】2008年5月22日(木) 15:00~17:00
 【場所】授業研究インテリジェントラボ(大学開放実践センター3階)
 【話題提供者】宮田政徳・鈴木尚子・香川順子先生(徳島大学大学開放実践センター)
 【テーマ】「英国FD研修視察報告」—ストラスクライド大学のFD研修から見えてきたこと

【概要】1月11~13日まで、英国で最も効果的なFD研修プログラムを実施していると言われている、スコットランド・グラスゴーにあるストラスクライド大学のFD研修に参加された3人の教員から、FD研修の様子が紹介された。その研修プログラム内容、実施方法、実施担当者、参加者について詳細な報告があり、徳島大学のFD研修との違い等が取り上げられ、効果的なFD研修のあり方についての議論がなされた。

●第2回FDラウンドテーブル(参加者12名)

【日時】2008年7月4日(金) 15:00~16:30
 【場所】授業研究インテリジェントラボ(大学開放実践センター3階)
 【話題提供者】勅使河原三保子先生(徳島大学大学院先端技術科学教育部・国際連携教育開発セ

ンター)

【テーマ】「学生と教員の外国語能力向上に向けて
(工学系の事例から)」

【概要】勅使河原先生は2006年度より先端技術科学教育部・国際連携教育開発センターで、工学部学生への英語教育及び工学部系教員への英語支援に携わり、その2年間の取り組みが紹介された。その取り組みの内容の中で、工学部のみならず他学部への発展を考えた英語教育の支援、学生の学習意欲を引き出す英語教育法、大学での語学教育のあり方、ダブルディグリープログラムの課題、等について議論がなされた。

●第3回FDラウンドテーブル (参加者19名)

【日時】2008年11月28日(金) 16:30~18:00

【場所】授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3階)

【話題提供者】福田スティーブ利久先生 (徳島大学全学共通教育センター)

【テーマ】「自己主導型学習の促進」

【概要】大学の学びにおいて重要な事は「なぜ?」と問うこと、またそれに対する答えの出し方であると指摘され、現代の大学生は自ら学ぶ意欲をつぶされている学生が多いのではないかという問題提起があった。学生の学ぶ意欲を刺激するためには、教育学(Pedagogy)ではなく、成人教育学(Andragogy)を中心とする「自己主導型学習(Self-directed Learning)」の理論の重要性が強調され、その理論を基にした英語教育での実践例が紹介され、参加者もワークショップを通して体験することが出来た。

●第4回FDラウンドテーブル

【日時】2009年3月13日(金) 15:00~17:00 (実施予定)

【場所】授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3階)

【話題提供者】川野卓二・宮田政徳先生 (徳島大学大学開放実践センター)

【テーマ】「POD/NCSPOD 参加報告」

【概要(予定)】徳島大学の大学開放実践センターでFDを担当している2人の教員が、四国地区大学教職員能力開発ネットワークの海外視察団の一員として、米国ネバダ州リノで10月22~25日ま

で行われた、NCSPOD (=North American Council for Staff, Program and Organizational Development) と POD (=Professional and Organizational Development Network in Higher Education) の合同年次大会に参加した報告が行われた。今回の33回大会へは四国地区大学から11名、日本から全体で27名の参加があり、日本からの参加者は過去最高であった。今年度から学士課程教育でFDが義務化されたのが最大の原因ではないかと言われている。報告は前半が宮田先生によるPOD参加報告、後半が川野先生によりNCSPOD報告となった。いずれも大会のプログラムの日程、内容、参加者についての詳細な発表があった。四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(略してSPOD)では、平成21年から米国のPOD年次大会と同じようなSPOD年次総会を開く計画となっている。

7. 教育の質を向上させるための学生WG

2004年度より、大学教育委員会に「教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ」が設置されており、2008年度には主に以下のような活動を行った。

●新入生へのオリエンテーション時における学生WGの紹介とメンバー募集

実施日: 2008年4月2日(水)~4日(金)

場所: 総合科学部および工学部の各学科オリエンテーション会場

参加者: 学生3 (総合科学部)、教員1

内容: 新入生オリエンテーションにおいて、学生WGの紹介およびメンバーの募集を行った。

●第1回ミーティング

日時: 2008年4月11日(金) 16:20~18:00

場所: 授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3階)

参加者: 学生5名、OB学生2名、教員2名

内容: ①入学オリエンテーション時の学生WG紹介の反省 ②今後の活動についての意見交換 ③目安箱の鍵引継ぎ

●第2回ミーティング

日時: 2008年4月22日(火) 8:40~10:10

場所: 授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3階)

参加者：学生3名、教員1名

内容：学生が自主的に集まって、教員も参加した。

①授業についての意見交換（主として受講登録期間の意見） ②学生の提案する授業

●第3回ミーティング

日時：2008年5月8日（木）16:20～17:50

場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3階）

参加者：学生3名、教員4名、事務職員1名

内容：①自己紹介 ②電子メールアドレス(gakusei@stud.tokushima-u.ac.jp)確認 ③目安箱の今後の利用について ④工学部学生の積極的参加について ⑤活動についての意見交換

●第4回ミーティング

日時：2008年6月10日（火）16:20～17:50

場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3階）

参加者：学生2名、教員1名、事務職員1名

内容：①教養教育FDフォーラム②学生と社会人による授業企画ゼミ③コインロッカー④目安箱⑤電子メール⑥授業評価アンケート⑦シラバス⑧学生の考える授業

●第5回ミーティング

日時：2008年7月8日（火）16:20～17:50

場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3階）

出席：学生1名、教員4名、事務職員2名

内容：①FDフォーラム ②岡山大学 i*See2008 ③教養の紹介ビデオ作成

●教養教育FDフォーラム

日時：2008年7月24日（木）14:30～18:00

場所：共通教育4号館 4-302教室

参加者：学生41名、社会人8名、教員23名、事務職員8名

内容：フォーラムを主催した。学生の発表14件、社会人の発表7件、教員の発表7件。

●第7回ミーティング

日時：2008年9月4日（木）15:00～17:00

場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3階）

参加者：学生2名、教員2名、事務1名

内容：①教養教育FDフォーラム反省会 ②広報

誌「とく talk」 ③i*See2008 ④教育GP ⑤プロモーションビデオ ⑥英語教育FDフォーラム

●岡山大学 i*See2008

日時：2008年9月18日（木）10:00～18:00

場所：岡山大学50周年記念館他

参加者：学生1名、教員1名

内容：i*See2008に参加し、小グループ、大グループによる話し合いの後、コンテスト。

●目安箱に対する掲示

日時2008年10月1日（水）

内容：教職科目「憲法」の履修について不安があるという投書に対して、ポスター掲示で案内を行う

●第8回ミーティング

日時：2008年10月6日（月）16:30～18:00

場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3階）

参加者：教員3名、事務1名

内容：①英語教育FDフォーラム ②教育GP ③プロモーションビデオ

●学びのコンベンション

日時：2008年10月17日（金）12:50～13:50

場所：総合科学部 第2会議室

出席：学生6名

内容：英語教育FDフォーラムでの発表を念頭に全学共通教育の英語に関して日ごろ感じている点の意見集約をおこなう。

●英語教育FDフォーラム

日時：2008年10月28日（火）16:30～18:00

場所：共通教育4号館 4-202教室

発表者：学生1名、教員4名

参加者：学生4名、教員17名、事務3名、社会人3名 計27名

内容：学生WGが主催。全学共通教育の英語教育に関して、日ごろ感じている課題を学生、教員が発表し、地域社会人を交えて語り合うことにより、今後の徳島大学における英語教育の方向性を探る。

●徳島大学広報誌「とく talk」10月号

記事の掲載

●教養教育FDキャンプ

日時：2008年11月1日（土）～2日（日）

場所：鷲敷野外活動センター

内容：全学共通教育が主催の教養教育FDキャン
 プに学生ワーキンググループから学生1名、教員
 1名が参加し、企画の一部、実施の一部に協力し
 た。

●教養教育FDフェスタ

日時：2008年11月25日(火) 16:30~18:00

場所：総合科学部3号館スタジオ

内容：学生ワーキンググループから学生1名、教
 員1名が参加し、企画の一部、実施の一部に協力
 した。

●第9回ミーティング

日時：2009年1月14日(水) 12:30~12:45

場所：場所：総合科学部3号館スタジオ 学習支
 援室

参加者：学生1名、教員2名、事務1名

内容：後期試験期間中に図書館および講義室の利

用時間延長の依頼を学生WGから要望する。

8. 教育カンファレンス

【会期】2009年1月21日(水) 9:00~17:30

【会場】大学開放実践センター1階

第3期全学FD推進プログラムの第1年目に
 当たる今年度の教育カンファレンスは、前回と同
 様に後期授業期間中の1月に大学開放実践センタ
 ーを会場として開催された。今年も各学部からの
 発表があり、発表数は、口頭発表19件、ポスター
 発表8件の計27件であった。また、特別講演とし
 て、京都大学高等教育研究開発推進センターの溝
 上慎一先生による講演が「どの活動次元でもHigh
 Performerな学生が高い学習効果を示す」と題して
 行われた。参加者は、学外からの参加者12名を含
 む、約110名であった。

平成20年度 全学FD徳島大学教育カンファレンス プログラム

会期：2009年1月21日(水) 会場：徳島大学大学開放実践センター

8:45 ~9:15	<大学開放実践センター1階玄関前> 受 付	
9:20 ~9:30	学長挨拶 青野敏博 <第1講義室> 司会：曾田紘二	
9:40~12:05	口頭発表A 座長：河村保彦 <第1講義室>	口頭発表B 座長：勢井宏義 <第2講義室>
	A① 9:40~10:05 ■現代GP「豊饒な吉野川を持続可能と する共生環境教育」の実施と今後の 展開について 総合科学部 三好徳和 他	B① 9:40~10:05 ■e-Learning を活用した大学間連携 事業の実践について 高度情報化基盤センター 金西計英 他
	A② 10:10~10:35 ■高大連携事業「高校生の大学研究室 への体験入学型学習プログラム」実 施報告 総合科学部 渡部稔 他	B② 10:10~10:35 ■徳島大学における学務系事務職員 研修(SD)の取組みについて 学務部学務課 三好信幸
A③ 10:40~11:05 ■工学教育の連携これまでとこれから 5大学連携教育シンポジウムと韓国 海洋大学校との国際シンポジウム 工学部創成学習開発センター 英崇夫	B③ 10:40~11:05 ■環境家計簿作成による環境配慮意 識向上とCO ₂ 排出量削減効果につい て 先端技術科学教育部2年 三谷直子 他	

	<p>A④ 11:10~11:35</p> <p>■サイエンス・エンジニアリングクラブ構想について</p> <p>工学部創成学習開発センター 続木章三 他</p>	<p>B④ 11:10~11:35</p> <p>■教育の質を向上させるための学生ワーキンググループの取組</p> <p>総合科学部 齊藤隆仁 他</p>
	<p>A⑤ 11:40~12:05</p> <p>■長期インターンシップにおける学生の知的財産に関する検討</p> <p>徳島大学大学院先端技術科学教育部 長期インターンシップ支援室 入谷忠光 他</p>	<p>B⑤ 11:40~12:05</p> <p>■大学の授業改善活動に学生が参加する意義</p> <p>総合科学部自然システム学科4年 金成香奈子</p>
<p>昼 食 休 憩</p>		
13:00~14:30	<p>特別講演 司会：香川順子 <第1講義室></p> <p>演題：「どの活動次元でも High Performer な学生が高い学習成果を示す」</p> <p>講師：溝上慎一先生 京都大学高等教育研究開発推進センター</p>	
14:30~15:30	<p style="text-align: center;">ポスター発表 <1階ロビー> 座長：奥田紀久子</p> <p>●特別支援教育に関するボランティア学生養成プログラムについて P① 総合科学部 山本真由美 他</p> <p>●産業保健・看護学における職場巡視の学習到達目標達成のための教授方法の工夫 P② 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 藤井智恵子 他</p> <p>●乳幼児との継続交流をとり入れた体験型コミュニケーション教育①~3年間の実践報告~ P③ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療教育開発センター 長宗雅美 他</p> <p>●乳幼児との継続交流をとり入れた体験型コミュニケーション教育②~TEGから見た体験型授業終了1年後の学生の変化~ P④ 大学院人間・自然環境研究科 臨床心理学専攻 岡本愛 他</p> <p>●自己実現の教育と大学における学びの支援—「自己発見の学習」を支援する事例より— P⑤ 大学開放実践センター 香川順子</p> <p>●医療職種間教育（IPE）ワークショップの実施と成果 P⑥ 薬学部 三木あかね 他</p> <p>●入学前学習支援とeコンテンツ開発 P⑦ 総合科学部・全学共通教育センター 桑折範彦 他</p> <p>●POD2008年次大会参加報告 P⑧ 大学開放実践センター 宮田政徳</p>	
	<p style="text-align: center;">口頭発表D</p> <p style="text-align: center;">座長：石田三千雄 <第2講義室></p> <p>D① 15:05~15:30</p> <p>■社会人ボランティア参加型授業における学習効果 社会人ボランティアの授業貢献</p> <p>全学共通教育センター 中恵真理子 他</p>	

口頭発表C		
15:05~17:30	<p style="text-align: center;"><第1講義室> 座長：寺尾純二</p> <p>C① 15:35~16:00</p> <p>■学生の学習促進に関連する教員側要因の検討 医学部医学科授業評価アンケート調査 医学部教育支援センター 三笠洋明 他</p>	<p>D② 15:35~16:00</p> <p>■社会人参画の共創型学習と教養教育FDキャンパー知の継承を目標とした生涯学習と大学教育に対する意義— 総合科学部 大橋眞 他</p>
	<p>C② 16:05~16:30</p> <p>■毎回の講義に理解度チェック表を取り入れた講義方法改善の試み 大学院ヘルスバ イサイエンス研究部 二宮恒夫 他</p>	<p>D③ 16:05~16:30</p> <p>■学生が主体的に運営するFDキャンプとFDフェスタ 総合科学部自然システム学科4年 二宮一毅 他</p>
	<p>C③ 16:35~17:00</p> <p>■高齢社会を担う地域育成型歯学教育—初年次教育における達成課題— 歯学部 日野出大輔 他</p>	<p>D④ 16:35~17:00</p> <p>■学生主導による教養教育改善の取り組みについて~FD フェスタ開催~ 全学共通教育センター 光永雅子 他</p>
	<p>C④ 17:05~17:30</p> <p>■チーム医療現場でのボランティア体験を通じたキャリア形成支援 歯学部 吉岡昌美 他</p>	<p>D⑤ 17:05~17:30</p> <p>■「真の学び」で英語力向上—徳島大学英語サポートルームの成果— 全学共通教育センター Steve T. Fukuda</p>

注

1) ARS とは、授業、会議、学会発表等で聴講者からの意見をリアルタイムで集計し、表示できるシステムである。詳細はKEEPAD JAPANのホームページを参照のこと。(TurningPoint ARS)

<http://www.keepad.com/jp/home.php>
(2008.12.31 参照)

2) 徳島大学「第1回学生の学習に関する実態調査報告書」は、2008年に徳島大学の教育の質に関する専門委員の委員が中心となって調査を行い、その結果をまとめたものである。

3) 文部科学省 2008「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」(2008.3.25)。

4) 徳島大学における授業支援システム(Moodle)は次のサイトより利用可能である。
<http://cms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>
(2008.12.31 参照)

5) トニー・ブザンの開発したツールで、理解力、

記憶力、発想力、問題解決力をはじめとした様々な脳の力を引き出すツールである。詳細はマインドマップ日本公式サイトを参照のこと。
<http://www.mindmap.ne.jp/> (2008.12.31 参照)

参考文献

- 1) 廣渡修一、曾田紘二、若泉誠一、森田秀芳、宮田政徳、森 和夫：2003年度徳島大学全学FD推進プログラムの実施報告『大学教育研究ジャーナル』創刊号, 45-65, 2004